

日鉄物産システム建築は2023年度の売上高322億円と過去最高を記録した。生井敏夫社長に事業戦略を聞いた。

(村上 倫)

—23年度の振り返りから。

「売上げの伸びは22年度に中部地区で受注した超大型の工場案件が大きく寄与した。収益面でも売上増により過去最高水準となっている。一方受注高は278億円で前年度比約13%減少したが、東北や東関東、九州の3地区では過去最高を更新した。中部や西日本地域で高水準の受注が継続している」

—足元の需要動向は。

「当社の受注構成は9割を工場・倉庫が占める。倉庫は冷凍・冷蔵倉庫や定温倉庫といった温度管理を厳格化した倉庫や危険物倉庫など機能の求められる倉庫は需要が拡大

# 日鉄物産システム建築の事業戦略

## 生井 敏夫社長に聞く



### 日鉄グループとの連携で存在感

## DX推進に大型投資、営業力強化

ターゲットとする700〜7千平方メートルのマーケットで存在感を高めていく」  
「2024年問題」に対してはシステム建築のシェアが30%超に達していると推定される。この領域でシステム建築はスタンダードな工法になりつつあるとの認識だ。建設コスト上昇や人手不足の加速は、今後も想定され、諸課題の解決に資するシステム建築の認知度も高まることもシェアも拡大していくと見ている。

ターゲットとする700〜7千平方メートルのマーケットで存在感を高めていく」  
「2024年問題」に対してはシステム建築のシェアが30%超に達していると推定される。この領域でシステム建築はスタンダードな工法になりつつあるとの認識だ。建設コスト上昇や人手不足の加速は、今後も想定され、諸課題の解決に資するシステム建築の認知度も高まることもシェアも拡大していくと見ている。

している。また、高度成長期に建てられた倉庫が老朽化し更新需要も期待できる」  
「工場も半導体関連の大型投資に付随して周辺産業の工場投資に動きが見られるほか、国内回帰の動きも継続している。また、建設コスト上昇を背に建てられた倉庫が老朽化し更新需要も期待できる」  
「工場も半導体関連の大型投資に付随して周辺産業の工場投資に動きが見られるほか、国内回帰の動きも継続している。また、建設コスト上昇を背に建てられた倉庫が老朽化し更新需要も期待できる」

